

The Steel Climate Standard

Global Steel Climate Council (GSCC) は、「The Steel Climate Standard」と題した、温室効果ガス (GHG) 排出量を測定・報告するための、特定の技術に依存しない国際基準を公表している。本基準は、1.5°C シナリオの達成というパリ気候協定の目標に沿って GHG 排出量を削減するための、科学的根拠に基づくガイドパス (削減経路) を特徴としている。

The Steel Climate Standard における 10 の重要事項

- 1 本基準は、製造時の GHG 排出量が少ない鉄鋼製品に対し、透明で分かりやすい認証を策定する。本基準は、全世界の鉄鋼メーカーに対し、平等に適用される。
- 2 本基準は、スコープ 1・2・3 に含まれるすべての温室効果ガスを網羅する算定範囲を確立している。
- 3 鉄スクラップの「スライディングスケール」に基づく基準は、“グリーン”のラベルを付けた排出量の多い鉄鋼製品が優先される結果に繋がりにくい。これは、イノベーションを妨げ、より排出量の多い鉄鋼メーカーが自社の製造工程の変革を先送りすることを許容し、ひいては鉄鋼セクター全体の GHG 排出量の更なる増加に繋がるものである。
- 4 本基準は、科学的、定量的、包括的、原則的及び透明性という、5 つの基本原則を用いた枠組みとなっている。
- 5 本基準は、Flat 製品と Long 製品それぞれに対して GHG 排出原単位に基づく評価・認定の基準を提供する。各企業が認証を取得する製品数に制限はなく、製造設備単位での取得も認められる。又、本基準は、消費者及びエンドユーザーにむけた認証済製品の表示方法についてのベストプラクティスを定めると共に、これを推奨する。
- 6 GSCC は、鉄鋼の製造プロセスやバリューチェーン内で実際に排出量が削減されることを重視しており、カーボンオフセットやカーボンインセットを現状認めていない。
- 7 本基準は、GHG 排出量の削減に資する、更なる技術革新と投資の発展を促すものである。
- 8 本基準は、加盟する鉄鋼メーカーに対し、1.5°C シナリオに沿った、科学的根拠に基づく 2050 年までの排出量目標を設定するよう求める。
- 9 GSCC は、製品単位の GHG 排出原単位について少なくとも 3 年に 1 回、企業単位の排出量削減目標については 5 年に 1 回、独立した第三者機関による検証を求める。
- 10 本基準は、政府や国際機関及びその他ステークホルダーによって、産業、貿易、気候保全に関する政策に採用され得るものである。



Global Steel Climate Council (GSCC) は、基準を策定し、鉄鋼セクターの関係者による炭素排出量の削減を提唱することで、気候変動に対する対応戦略を前進させるために設立された非営利団体である。GSCC のメンバー及びサポーターには、30 を超える各国の鉄鋼メーカー、業界団体、エンドユーザー、スクラップ供給業者及び非政府組織を含む。GSCC は特定の技術に依拠しない団体であり、現在利用している製鋼法に関わりなく全て鉄鋼メーカーの参加を奨励する。

(註)

本資料は、GSCC が作成した「GSCC-FactSheet」を大和工業株式会社が独自に翻訳したものです。また、日本語訳は同団体が内容を確認したものではありません。誤訳や意訳はすべて大和工業株式会社の責任によるものです。

翻訳文の著作権は大和工業株式会社に帰属し、本資料に記載された内容を使用して、いかなる損害が発生しても、大和工業株式会社および GSCC は一切責任を負いません。